



# 菊陽町DX人材育成プログラム (改訂素案)

令和6年7月

菊陽町 総務部 総務課

## 1 プログラムの概要

本プログラムは、菊陽町DX人材育成方針に定めたDX人材の職員像を実現するために必要なスキルを定めるものです。DXは、単にICTに詳しいだけでなく、業務を分析する力や変革を行うための創造力なども必要になってきます。

すべての職員が自治体DXを進める主体であることを認識し、本プログラムに定めるスキルを身に付けてください。また、多くの職員がより高度なスキルを身に付け、DX推進リーダーとなり、自治体DXを加速度的に進めていくことを期待します。

## 2 プログラムの種類

本プログラムでは、一般行政職員に必要なスキルとDX推進リーダーに必要なスキルを同時に定めることとします。

なお、高度専門人材については、DX推進リーダーの育成を進めたのち、改めて定めることとします。

一般行政職員に必要な  
DXリテラシーの  
プログラム

DX推進リーダーに  
必要なスキルアップ  
プログラム

図：スキルの範囲のイメージ

## 3 プログラムの内容

スキル		概要	DX推進リーダー		一般行政職員
			中級	初級	
全般	ICT基礎	ICTやネットワークに関する基本的事項、ICTの種類や特徴を理解している。	○	○	○
	DX基礎	DXが必要とされる社会的背景や考え方を理解し、DXにかかる基本的な知識を有している。	○	○	○
	DX推進力	DXを推進するため、BPRのポイントを押さえ変革の方向性を理解し、適切なICTツールを選択できる。	■		
EBPM	EBPM基礎	EBPMの基本的な基本的な考え方について理解している。	○	○	○
	データ利用	EBPMに際し、適切な基礎データの収集と利用ができる。	■		
BPR	BPR基礎	BPRの基本的な考え方について理解している。	○	○	○
	BPR実践	業務フローが作成でき、業務プロセス、業務パフォーマンスを可視化し、業務分析ができる。	○	○	
企画・調達・運用	システム企画	施策の方向性を検討し、優先順位を付けて計画を立案できる。	○	○	○
	システム調達	事業者へ提案を依頼し、適切な事業者の選定及び契約ができる。	○	○	○
	システム開発管理	要件定義等、理解しておくべきシステム設計・開発にかかる知識を有し、成果物評価ができる。	■	—	
	システム運用	システムの運用管理や利用職員の教育・サポート、情報セキュリティ管理ができる。	○	○	○
	システム開発	アジャイル開発の基本概念等、柔軟でスピード感のあるシステム開発手法を理解している。	■	—	

## 3 プログラムの内容

スキル		概要	DX推進リーダー		一般行政職員
			中級	初級	
思考力	プログラミング的思考	プログラミング的思考を身に付けるとともに、ノーコード・ローコードツールを理解している。	○	○	○
	デザイン思考	行政サービスの向こう側にいるユーザーを常に意識し、ユーザー体験を最適化するようなサービスの設計と提供ができる。	○	○	
	マネジメント	現状を把握し、柔軟に課題に対応し、適切な進捗管理・品質管理・リスク管理に基づき、円滑にプロジェクトをマネジメントできる。	■	—	
	リーダーシップ	組織の枠にとらわれず、DX推進のために必要な人材を集めて協業し、引っ張っていくことができる。	■		
構築	データ	データ分析・活用に関する基本的知識を有している。	○	○	○
	UX・UI	ユーザビリティ・アクセシビリティに考慮した画面デザインを設計できる。	○	○	
	NW基礎	ネットワークに関する基礎的な知識を有している。	○	○	○
活用	AI活用	AIの基礎（画像認識、音声認識、自然言語処理等）を理解し、業務へのAI導入を立案できる。	○	○	
	ツール	ノーコード・ローコードツールを活用できる。	○	○	○
情報セキュリティ	情報セキュリティ基礎	情報セキュリティに関する基本的用語、技術、考え方、リスクを理解している。	○	○	○
	インシデント対応	情報セキュリティ被害の種類を理解するとともに、発生した際の対処方法を理解している。	■		

## 3 プログラムの内容

外部研修		概要	DX推進リーダー		一般行政職員
			中級	初級	
標準	J-LISリモートラーニング	情報セキュリティコース	○	○	○
		個人情報保護コース	○	○	○
		デジタルリテラシー（ITパスポート対応）コース	◎	◎	—
中級	JAMP/JIAM	DX推進リーダー養成研修 等	■◎	○	
専門	APPLIC 自治体CIO育成研修	IT投資・ガバナンス編	◆		
		全体最適化と調達・運用設計編	◆		
資格		概要			
国家試験		ITパスポート	◎	◎	

※DX推進リーダー（初級）は、本プログラムに基づく研修に7割以上出席し、ITパスポートを取得したものに限り認定する。

※DX推進リーダー（中級）は、初級の認定を受けた者が、■の研修に6割以上出席し、◆のいずれかを受講した者に限り認定する。

受講年度は問わないが、初級と中級の認定を同年度内に受けることはできない。

※◎は必須とする。

※「—」は、R5年度のプログラムでは「○」と位置付けていたものを、R6年度の本プログラム見直しに伴い除外したものである。